

2025 年 10 月 23 日

J R 東 日 本 秋 田 支 社

「秋田駅」が環境にやさしい駅として新たに生まれ変わります

○JR 秋田支社では、男鹿駅のエコステや男鹿線で運転する交流蓄電池電車「ACCUM」への再エネ導入など 2050 年度の CO₂排出量「実質ゼロ」を長期目標とする JR 東日本グループ「ゼロカーボン・チャレンジ 2050※¹」の実現に向けて取り組んでいます。

○今回、秋田駅（秋田ノーザンゲートスクエア含む）で使用する電気を、JR 秋田下浜風力発電所を活用した「CO₂フリー電気」に切り替えるほか、JR 秋田支社ビル屋上に設置した太陽光発電を使用し、秋田駅構内の一部電力として供給します。

○太陽光発電の開始により、秋田駅は省エネルギー・再生可能エネルギーなどの環境保全技術を導入した環境にやさしい駅「エコステ」になります。

○今後も再生可能エネルギーの導入を推進し「脱炭素社会」実現へ向けて取り組みます。

1 秋田駅「CO₂フリー電気」の活用について

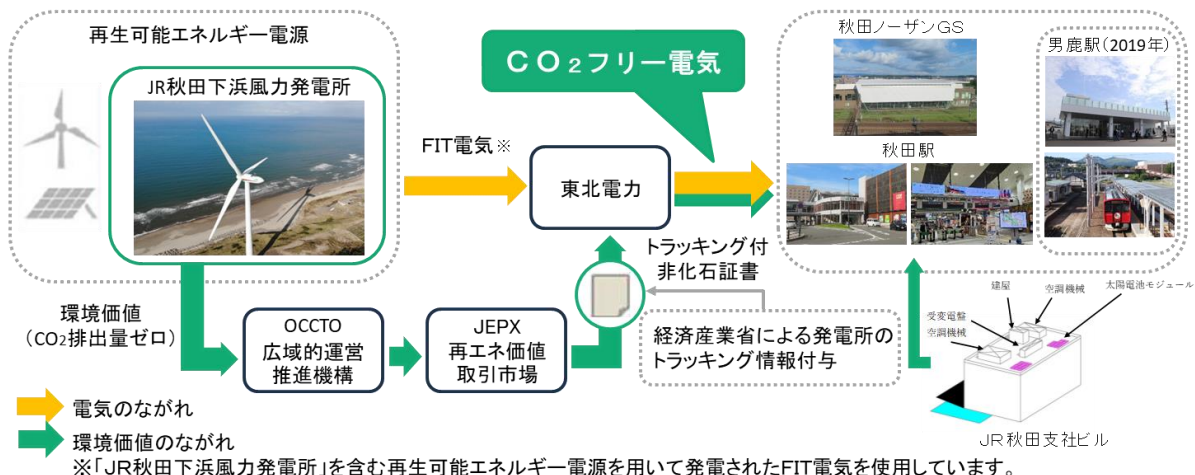
- (1) 使用開始 2025 年 11 月 1 日
- (2) 使用場所 秋田駅（秋田ノーザンゲートスクエア含む）
- (3) 概 要

JR 秋田下浜風力発電所で発電された FIT 電気※²を買取りしている東北電力株式会社が、同発電所のトラッキング情報（環境価値の由来となった発電所を明らかにする情報）が付与された「非化石証書※³」を調達し、FIT 電気と組み合わせて秋田駅と秋田ノーザンゲートスクエアに供給します。この電気を JR 東日本が購入することで、秋田駅と秋田ノーザンゲートスクエアで使用する電気が JR 秋田下浜風力発電所由来の CO₂排出量ゼロの電気として取り扱われます。

2 JR 秋田支社ビル屋上の太陽光発電について

- (1) 使用開始 2026 年 1 月（予定）
- (2) 使用場所 秋田駅構内
- (3) 概 要 太陽光パネル新設(10kW)により発電した電気を秋田駅構内にあるデジタルサインージ電源等で活用します。これにより秋田駅が「エコステ」になります。

3 電気供給スキームのイメージ



(参考)

※1 「ゼロカーボン・チャレンジ 2050」

JR 東日本グループは、2020 年度、新たに環境長期目標「ゼロカーボン・チャレンジ 2050」を策定し、グループ一体となって、2050 年度の CO₂ 排出量「実質ゼロ」を目指し、削減していきます。これにより「脱炭素社会」への貢献とともに、環境優位性のさらなる向上と、サステナブルな社会の実現を目指します。[JR 東日本グループ「ゼロカーボン・チャレンジ 2050」 | 豊かな地球環境のために | サステナビリティ | 企業サイト : JR 東日本](#)

※2 F I T 電気

固定価格買取制度 (FIT) の対象となる再生可能エネルギーで発電された電気のことです。「非化石証書」を活用しない場合の FIT 電気は、火力発電所などと同様に CO₂ を排出する電気として取り扱われます。

※3 非化石証書

再生可能エネルギーなどの CO₂ を排出しない電気を持つ環境価値を取り出し、証書化したものです。「非化石証書」を組み合わせた電気は、発電の過程で CO₂ が排出されない電気として取り扱うことができます。今回の取組みでは、電源種別や発電所所在地などのトラッキング情報を付与することで、環境価値の由来となる発電所が明らかになった「トラッキング付非化石証書」を使用します。